

認知文法の基礎 導入

田中太一

t.tanaka6002@gmail.com

基礎とは？

- もちろん「初歩」という側面もあるが
- 授業の目的と概要：認知言語学における主要理論の一つである認知文法の基礎を掘り下げる。特に認知文法に対する様々な誤解を晴らすことや、いわゆる第二期認知文法の展開を追うことを目的とする。今回の講義では、主に「主観性」にかんする議論を掘り下げる。

言語理論（というより）はモノの見方

- 学習目標：
認知文法の基本的な考え方を身につける。
認知文法を通じて言語の諸現象を見つめることができる。
- 認知文法では、さまざまな道具立てが用いられるが、考え方は一貫している
- 人間の言語知識を、一般的な認知能力および、認知能力を有する主体（ヒト）のコミュニケーションに基礎づける

検討するテキスト

- 1日目：西村・長谷川 (2018)→野村 (2018)→田中 (2024)→小柳 (2021) →Langacker (1985)
- 2日目：Langacker (1985)→池上 (2004)→Langacker (2007)
- 3日目：大森 (1963)→野矢 (2016)

成績評価について

- 授業での質問・意見等の貢献度（30%）
 - 授業中に随時質問を受け付けるほか、1日の最後に内容確認・質問のための簡単な課題を出す
- ~~期末レポート（70%）~~
- → グーグルフォームを用いた試験（70%）
- 解答期限：8月15日12時（昼）

認知言語学とは

- 1980年代後半に生成文法と対立するいくつかの枠組みがゆるやかに合流して成立し、現在では生成文法と並ぶ一大潮流となっている理論。ラネカー (R. W. Langacker) の認知文法、レイコフ (G. Lakoff) らのメタファー理論、フォコニエ (G. Fauconnier) のメンタル・スペース理論、フィルモア (C. Fillmore)、ゴールドバーグ (A. Goldberg) らの構文文法などが含まれる。(西村 2015: 176)

認知言語学とは

- 認知言語学は言語使用を可能にする大部分暗黙の知識とは何かを明らかにするという目標を生成文法と共有している。この目標には、言語知識の習得および近年では言語知識の出現を含む進化の仕組みの解明も含まれている。（西村2015: 176）

認知言語学とは

- 「認知言語学」という名称は、人間の心の仕組み全般との関連で言語知識をどのように位置づけるかをめぐって、この理論が生成文法と決定的に異なる立場を表明していることに由来する。生成文法が「言語知識は（現実の言語使用に関わる）より一般的な認知能力から自律したモジュール—心的器官(mental organ)—を構成する」という言語観を旗印とするのに対して、認知言語学を特徴づけるのは「言語知識は（ヒトをヒトたらしめているものも含めた、言語使用という目的に特化されない）一般的な認知能力と不可分であり、前者の本質は後者との関連を考慮してはじめて十分に解明されうる」という言語観である。
(西村2015:176)

認知言語学とは

- 認知言語学の入門書
- 野村益寛 (2013) 『ファンダメンタル認知言語学』
- 本多啓 (2013) 『知覚と行為の認知言語学』
- 西村義樹・野矢茂樹 (2013) 『言語学の教室』
- 高橋英光・野村益寛・森雄一 編 (2018) 『認知言語学とは何か』
- 大堀壽夫 (2002) 『認知言語学』

認知文法の概説

- 認知文法：認知言語学における理論の一つ
Ronald W. Langacker がほぼ一人で作り上げ、改良を続けている
- ラネカー自身による経歴・業績一覧
- <https://idiom.ucsd.edu/~rwl/>

認知文法の概説

- 認知文法の歴史は、大まかに2つ（ないし、3つ）に分けられる
 - もっとも、このようにはっきり区分するようになったのは、2008あたりから
- 第一期認知文法：1976～2000 語彙、形態、統語の統一的説明。
とくに初期の研究は、対生成文法の態度がはっきり現れている
1987 *Foundations of Cognitive Grammar* vol. 1
1990 *Concept, Image, and Symbol*
1991 *Foundations of Cognitive Grammar* vol. 2
1999 *Grammar and Conceptualization*
2000 *A Dynamic Usage-Based Model*

認知文法の概説

- 第二期認知文法（移行期）：2001~2010 構造、処理、談話の
統一的説明（よく引用されるのはこのあたりまで）
2001 Discourse in Cognitive Grammar
2002 The Control Cycle
2002 (2005) Dynamicity, Fictivity, and Scanning
2005 Construction Grammars
2006 On the Continuous Debate about Discreteness
2008 *Cognitive Grammar: A Basic Introduction*
2009 *Investigations in Cognitive Grammar*

認知文法の概説

- 第二期認知文法（本格化）：2011～ 機能に重点をおき、構造、処理、談話の統一的説明を徹底
 - 2012 Elliptic Coordination
 - 2012 Interactive Cognition
 - 2015 How to Build an English Clause
 - 2016 Metaphor in Linguistic Thought and Theory
 - 2016 Toward an Integrated View of Structure, Processing, and Discourse
 - 2016 Baseline and Elaboration
 - 2020 Trees, Assemblies, Chains, and Windows
 - 2021 Functions and Assemblies

認知文法の概説

- 認知文法の入門書
- 坪井栄治郎(2020)「認知文法」坪井栄治郎・早瀬尚子（著）『認知文法と構文文法』：1-119.
- Langacker が書いた（認知文法に関する）ものの翻訳としては以下の2つ
- 「動的使用依拠モデル」坂原茂（編）『認知言語学の発展』：61-143.
- 「概念化・記号化・文法」マイケル・トマセロ（編）『認知・機能言語学』：25-75.

認知文法の概説

- 本格的に勉強する場合：まずは、論文集の初めに収録されている論文（のどれか）を読み、2008に進む。その後は文献表を頼りに、興味のある内容のものを読み進めて行く。
- Introduction 1990 *Concept, Image, and Symbol*
- Clause structure 1999 *Grammar and Conceptualization*
- Constructions in Cognitive Grammar 2009 *Investigations in Cognitive Grammar*
- 2008 Cognitive Grammar: A Basic Introduction
- （翻訳は誤りが多いので注意）

参考文献

- 西村義樹 (2015) 「認知言語学」 斎藤純男、田口善久、西村義樹 (編) 『明解言語学辞典』：176-177. 三省堂.